



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第403号 2008年10月12日発行

大阪教区の皆様は紙上をお借りして初めてのご挨拶をさせていただきます。

去る9月20日、多くの皆様のご列席をいただき、大阪教区主教聖堂川口基督教会において、主教按手式並びに大阪教区主教就任式にあずかることが許されました大西 修と申します。

5月29日の日本聖公会総会において主教に選出され、これをお受けしてから早や3カ月が経過いたしました。今日の日を迎えるまでには、多くの教区、教会をはじめ、

お目にかかったこともないたくさんの信徒の皆様のお祈りと励ましとお支えをいただきてまいりました。このことに心にとめ、筆舌には尽くし難い感謝と喜びと恐れの思いをもってこれまでの日々を過ごしてまいりました。

ここで簡単な自己紹介をさせていただきます。私は生まれも育ちも中部教区(愛知県、岐阜県、長野県、新潟県、中部教区から出たのは

東京の聖公会神学院で学んだ3年間だけです。父が司祭だったので転勤に伴い、小学校までは名古屋(一時期豊橋)、

中学、高校時代は長野県の稲荷山(現在の千曲市)で生活いたしました。大学は松本市、在籍した松本聖十字教会から聖職候補生に推薦され、神学院へ行きました。卒業後は主教座聖堂名古屋聖マタイ教会、豊橋昇天教会、長野県の松本



主教 サムエル 大西 修

主教に就任して

B型です。

大阪は右も左もわからない全くと云っていい程、見ず知らずの土地、言葉使いや文化生活習慣の違いも多くありますが、今はそれを一つ一つ発見していくこと、理解していくこと、その違いを受け入れていくことの素晴らしさを感じつつあります。「住めば都」にきつとなることと思えます。

過日、今年百歳になられる小池主教様をご訪問した折、「大阪教区は良い教区ですよ、何も問題ありません、心配いりませんよ!」と激励してくださいました。とても嬉

しいお言葉に、希望をもってこの教区で精いっぱい働かせていただくとうの気持ち新たにしました。大阪教区に問題は何かないわけがありません、問題は山積だと思えます。それはどの教区も同じで、それぞれ問題を抱えています。

しかし、主を信じ、希望をもって問題に正面から向き合っていく時、心配しなくてもいいですよ、大丈夫ですよ、主

イエスが共にいて歩んでくださるから、そう小池主教様はおっしゃったのだと私は受け止めました。

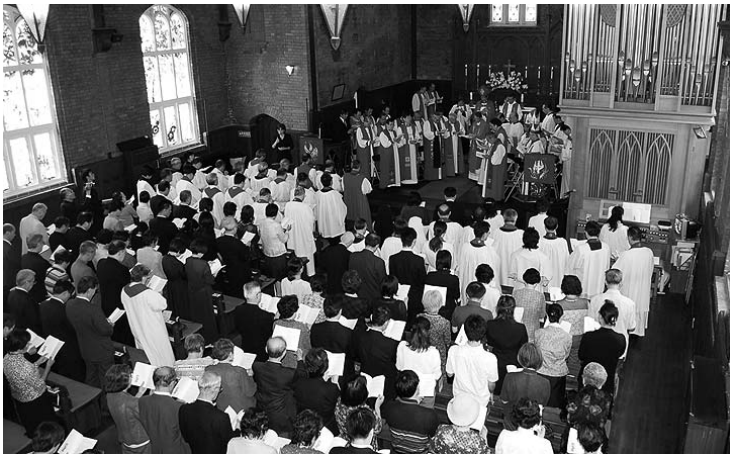
主に愛されている大阪教区、その交わりの中に生きる一人として、与えられた働きの場である大阪教区を、思いと言葉と行いをもって、こよなく愛していきたいと祈っています。

今夏イギリスのカンタベリで開催された第14回ランベス会議(10年に1度開催される全聖公会主教会議)の開催レトリートで、カンタベリ大主教ウイリアムス・ローワン博士は、「どんなことにも感謝しなさい」(テサロニケの信徒への手紙15・18)の必要性を全世界の主教たちに強調されました。「どんなことにも」はどんな厳しい状況にあつたとしても、自分としてはとても感謝出来ないような事柄であっても、の意味です。

私もこの思いを常に保持しつつ、皆様と共に歩んでまいりる所存です。どうぞご交誼のほどよろしくお願い申し上げます。

サムエル 大西 修師の 主教按手式・教区主教就任式挙行

大阪教区第7代主教の誕生に550人が集い祝う



先に日本聖公会総会で行われた大阪教区主教選挙で選出され、主教被選者となったサムエル大西修司祭(中部教区)の主教按手式および第7代大阪教区主教就任式は、9月20

日(土)午前10時から大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)で行われ、日本聖公会の主教14人(退職主教4人を含む)をはじめ聖職者、信徒、来賓など約550人の参列を得て、

喜びと感謝のうちに盛大に行われた。前日から未明にかけて、

本州南沿岸を台

風が通過、空模様が危ぶまれたが、当日は天候も回復し、青空の下、遠来の方々を含む多くの参列者が詰めかけた。聖歌300番の調べの中、プロセッションの長い列が入堂、これには来賓のカトリック大阪大司教区・池永潤大司教、日本基督教団大阪教区・向井希夫総会議長、大阪キリスト教連合会・井上隆晶会長も列に加わられた。

聖別され、着座される大西師

植松誠首座主教の司式で主教按手式が始まり、礼拝堂は中部教区からの100人余の聖職・信徒を含む多



試問される植松主教

くの会衆で埋め尽くされ、入りきれない他の会衆は会館3階大ホールの仮設の式場でモニターを通し礼拝に参加した。旧約聖書朗読(教区婦人会会長・鈴木光子姉)、使徒書朗読(教区連合男子会会長・豊川雅章兄)、福音書朗読(東北教区・加藤博道主教)に次いで、大西主教の神学院同級生だった九州教区・五十嵐正司主教が説教された。(説教の要旨は別掲)。

引き続き、2人の主教(神戸教区・中村豊主教と京都教区・高地敬主教)が、正服の一部を着けた大西修主教被選者を伴い、祭壇前の座について植松主教の前に進み出て推薦の言葉を述べ、「司祭按手の証」と「主教当選確認書」を朗読。植松主教は会衆に向けて「大西修師の主教按手に同意しますか」「大西修師を

主教として支持しますか」と問い、会衆は「同意します」「支持します」と答えた。

さらに植松主教が大西主教被選者に対し「試問」のあと、大西師は正服の残りの部分を着け、会衆は主教の職に召された大西師への神の祝福を祈り、「主教聖別」に移った。司式主教の植松主教をはじめ臨席の主教たちが大西師の頭に手を置き、ここに正式に「大西修主教」が誕生。牧杖を手にして主教座についた新主教に対し、期せずして会衆から一斉に大きな拍手が送られた。聖餐式のあと、植松主教のあいさつ、来賓の紹介などが続き、終わりに大西新主教の挨拶が行われ、ユーモアたっぷりの挨拶に会場は爆笑の渦(大西主教の挨拶要旨は別掲)、約2時間にわたる式典は多くの感銘を残して終了した。祝賀の喜びはさらに近くの中島ビル・NBCホテルでの祝賀会に場を移し、約350人が参加して大西修主教の誕生を喜び合った。

(来賓の方々のご芳名は第7ページに掲載) (編集部)

五十嵐正司主教の説教(要旨)

混沌を包み込む神の霊を信じ、共に「自分に死んだ」の告白を

大西修主教の按手・就任式

おめでとうございます。天使ガブリエルがおとめマリヤに告げたように、私も大西主教に「おめでとう。恵まれた人」と言いたい。

彼は中部教区を離れ、大阪への「旅立ち」にあたって、中部教区の教区報に載せていた一文には次のように書かれている。

「全く思いもよらない出来事にどう対処すべきか、思案しました。これまでの生活の中で、この時ほど真剣に祈り、神のみ心がどこにあるかを必死に探し求めたことは一度もありませんでした。自分自身の健康、能力、それをどこから見ても、とても主教としての働きを担える器でないと思



底から思いました。しかし自分の力で何かをしようと思

のどこかで思っているその思い上がりこそが、傲慢のそし

りを免れ得ないことを、祈りと黙想の中であらためて気付かされました。主がともにいて、支えてくださらなければ、何もすることは出来ない。だから、主を信じていま旅立つ以外に道はない、そう決断した次第です。」

彼がイエスの母マリヤのように「お言葉どうりこの身になりますように」と言っていることを嬉しく思った。私は7月に開催されたランベス会議に出席して、創世記1章2節以下「地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いてい

た」と、ヨハネによる福音書18章9節「あなたが与えてくだされた人を一人も失いませんでした」の2つの箇所を思い浮かべた。世界の聖公会がさまざまな問題に直面し、分裂の危機に面しつつも、「一致を回復したい」との強い願いをもってランベス会議は開催された。どうなるか分から

ない混沌とした中で、スタートだったが、やがて参加者の間に次第に柔らかな心、互いに聞く耳が与えられ、非難するのではなく、まず聞く姿勢が与えられ、信頼して話し、信頼して聞く、そのように導かれた時、創世記の言葉が思い浮かんだのだ。混沌としていても、状況を覆い包むように神の霊が動くのだと。

また、各主教が互いの心を善き思いをもって聞こうとする姿勢によって、「一人も取り残されない」という姿を見ることが出来た。自らの主教を3回も選出できなかった大阪教区も、神の霊は包み込むようにして動いていて下さることを信じ、一人も失うことなく一致できるよう祈りたい。

大西修主教のあいさつ

本日は多くの皆様のご臨席をいただき、心から感謝します。多くの方々のご挨拶の中で正直なのは「何と言っていたか分からない」というものでしたが、大阪教区主教として召されたことを重く受け止めております。先週、今年12

ランベス会議での毎日の聖餐式は、それぞれの国にゆだねられた礼拝が行われたが、ケニア聖公会の礼拝が印象深かった。パンとぶどう酒が聖別された直後に唱える「キリストは死に……」の記念唱の直後、司式者が「キリストの血によって兄弟姉妹となつた私たち」と言い、会衆は「私たちはともに死にました。私たちはともに生きていきます。私たちはともに生きていきます。私たちはともに生きていきます。」と力強く告白していった。私たちは、洗礼によってすでに自分自身に死んだことを告白し、パンとぶどう酒の聖別直後に、私たちはすでに死んだものと告白するが、現実には自分の考えや感情は第一、自分の都合は第一となっ

ている。だが「私たちはともに死にました……」と告白するところから、クリスチャンの生き方が始まり、クリスチャンとして歩む自分を再三確認していくことが、大きな力になるのではないかと。

大西新主教が大きな犠牲を払って大阪に来たことをまづ覚えたい。大西主教は「わたしたちは死にました」と言ったかもしれない。私たちは大西主教に任せればいいのか。私たちがはとも生きていきます。クリスチャンとして前に向って生きていきます」と言う必要があるのである。私たちがはとも生きていきます。クリスチャンとして前に向って生きていきます」と言う必要があるのである。私たちがはとも生きていきます。クリスチャンとして前に向って生きていきます」と言う必要があるのである。

月で100歳になられる元大阪教区主教の小池主教様を訪ねました。主教様はとても喜んでくださり、「大阪教区には何も問題がないからね」と言ってくれました。私はこの教区に来るとき、皆さんからいろんなことを伺いましたが、お一人お一人の意見として大切に受け止め、皆さ

んと一緒に歩んで行きたいと思えます。小池主教様は私をしげしげと見ながら、「その光を大阪教区に輝かせ」と4回も言われました。問題のない教区など、ありません。しかし皆で本気で受け止め、与えられた問題をクリアーできればいいな、と思っております。

連合男子会1日修養会
「大阪教区 来るべきもの」をテーマに
教会を越え 熱のこもった話し合い



大阪教区連合男子会では、

新しく大西修主教様を大阪にお迎えした大切な時をとらえ、「信徒のはたらき」についてさまざまな視点から諸問題を問いなおし、学びと分かち合いの時を持つため9月23日(月)秋分の日、主教座聖堂・川口基督教会で1日修養会を持った。

今回のテーマは「大阪教区・来るべきもの いま私たちがすべきこと」。聖職、男子会会員のほか、女性も交え、80人以上の信徒が参集し、朝から夕方までの長時間、各教会がかかえるさまざまなこと、教区として取り組むべきこと

などにつき、熱のこもった話し合いが行われ、教会を越えた分かち合いと交わりの中に、恵みに満たされた1日を過ごすことができた。

午前10時から開会礼拝、総合司会の伊藤良三兄(芦屋聖マルコ教会)の挨拶に続き、パネルディスカッションが行われた。パネリストは竹内信義司祭、山本眞司祭、内田望司祭、榎本邦夫兄(大阪聖三一教会)、井上美津姉(大阪聖ヨハネ教会)、西村逸郎兄(高槻聖マリヤ教会)の6人で、井上進次聖職候補生がコーディネーターを務めた。まず竹内司祭がトッパツターとして高齢者の問題を取り上げ、「かつて教会の伝道は若い人を対象としてきたが、いまは高齢者への伝道が大切だ。教会の中の1人住まいの人のため『見守りグループ』のようなものをつくってほしい。また入院、寝たきり、ヘルパー、ショートステイ、施設の利用など、老人に対する

介護・介助のシステムを知る必要があり、教会でぜひ説明会や対策チームを立ち上げてほしい」と述べ、最後に「教区としての墓地をぜひ作ってほしい」と結んだ。

大学教員として日ごろ若者とのふれあいの多い榎本邦夫兄は「なぜ日本の若者は教会に興味を持たないのか」をテーマに、若者の現状について①多様性で、ひとつのことに打ち込むことが出来ない②絶対者(神仏)との深い関わりを好まない③小集団で満足し、携帯電話を離せない④働かない、働けない若者たちが増えている——と分析。所属教会での「男の料理教室」や、教会学校保護者たちのグループ活動を紹介し、教区の取り組みとして、活動出来る適正規模の教会のための教会間の合併問題、教区のチーム・ミニストリー、ミッションスクールの役割の重要性を強調した。

山本司祭は、まず「大阪教区の厳しい状況の中で、嘆いたり、分析だけに終始するのではなく、力を合わせ前進するならば、希望に溢れ、働きの余地が出てくると思う」と述べ、突然の牧師不在の事態に陥った聖マルコ教会に急きよ赴任しての半年の経験について「これまで牧師不在を経験したことのない信徒たちが、教会という生きた共同体をどう守り抜いたかがポイントだ。牧会にはむしろ信徒の務めであり、何事も牧師まかせにせず、祈り、励まし合う。そうすれば、喜びを通して神のみ声が聞こえてくる」と語った。

井上美津姉はまず日本聖公会婦人会について「100年間のうち、最近はその社会的な変化によって問題が起り、会議や意見交換などを重ねたが、その時、出てきた言葉は『やってみなければ分からない』ということだった」と語り、堂々巡りの論議より、実行の大切さを語った。また、所属の聖ヨハネ教会につき、大韓聖公会ソウル教区から日韓宣教協働者として派遣されている趙鍾必(チョウジョウヒ)牧師と信徒の交わりで、言葉や習慣、価値観の違いから様々な問題が起り、戸惑い、いまでも戸惑い続けているが、必ず話し合いの場を設け、理解し合い、あきらめることなく互いに学び合っている、との現状を報告した。

内田司祭は、「大阪教区では『管理牧師』を兼ねている聖職の名が多くあげられており、何年後かには、その数はもっと多くなる」と述べ、「聖餐式などは司祭でなければ出席せず、信徒奉事者などの働きはあっても、出席者は少なくなってしまおう」として、「聖餐式もこれまでと違い、午後に行く必要が出てくる」と示唆。「しかし大切なことは信徒の意識の持ち方だ。不平不満があっても『やってみる』ことが大切だ」と強調。「とくに信徒は何事にも『嬉々として当る』(旧約続編バルク書3章34、35編)が必要。これが最高の宣教と考えている」と結論づけた。

最後に、修養会の実行委員でもある西村逸郎兄が、テレビのドラマや、近くの神社などの話から知る日本人の宗教感覚について語り、どこかで宗教的なものを求めている人々への教会の対応の必要性を語った。とくに初めて教会に足を踏み入れた人々が抱く「心理的なカベ」への配慮、また「まず教会に来てくださ

神学生を囲むつどい 120人が集い、4学生にエール送る



林さんを紹介する千松さん(右)



奥村さんを紹介する古澤さん(右)

大阪教区神学生後援会では8月31日(日)午後、堺聖テモテ教会で「神学生を囲むつどい」を催し、各教会から集った120人以上の聖職・信徒が4人の神学生に、心からのエールを送った。

神学生はウイリアムス神学館で学ぶ林正樹さん(西宮聖ペテロ教会)と千松清美さん(庄内キリスト教会)、聖公会神学院で学ぶ奥村貴充さん(堺聖テモテ教会)と古澤

秀利さん(聖ルシヤ教会)で、4月からそれぞれの学び舎で授業に励んでいる。「つどい」は太田幸彦さん(聖ルシヤ教会)の司会で始まり、開会の祈りのあと、神学生の紹介が行われた。同級生同士が互いに相手を紹介する形で行われ、千松さんは林さんを「真面目で勉強好き」と紹介すれば、林さんは千松さんを「堂々とした信仰者」と返し、また古澤さんは奥村

さんを「第一印象は真面目で誠実だが、次第にユーモラスで面白い人」と紹介すれば、奥村さんは古澤さんを「友人たちとの交わりがよく出来る人で、子ども好き」と紹介。聖公会神学院での授業や礼拝、生活の様子がプロジェクトで映し出され、奥村さんが説明に当たった。

古澤さん(右)は「希望」というテーマで見事に説教を終えた。宇野主教の講評のあと、神学生後援会から石毛弘さん(西宮聖ペテロ教会)が、神学生への支援をアピールするとともに、聖職の不足を憂い、「聖職を志願する人を見出し、積極的に推薦してほしい」と訴えた。「囲むつどい」は盛会のうちに幕を閉じた。

(編集部)

(前ページよりつづく)

い」と訴えることが果たしてできる状態なのかとの憂慮…。これこそが教会に突きつけられた課題だと述べた。また「結婚式や葬送式で、初めて教会での説教を聴いて感動する人が多い」と述べる一方、「信徒にも分かり易い説教をぜひしてほしい」と希望を語った。

例えば、牧師のサポートになる。高齢者への配慮として、教会を越えた教区としての連絡網がほしい。さらに2、3の出席者から感想などが述べられたあと、最後のプログラムとして大西主教から以下のようなメッセージを頂いた。

以上でパネリストの発題を終わり、昼休みのあと午後1時すぎから午後の部に移り、5つのグループに分かれて「分かち合い」の時を持った。1時間を越える話し合いでは、各グループとも熱を帯び、午後3時からの「グループ発表」では以下のような意見や感想が発表された。

「1日修養会が教区で出来るのは、大阪教区の素晴らしい恵みだ。中部教区では一泊しないと出来ないことだ。今日のテーマに『来るべきもの』とあるが、希望は大事なものであっても、それを風船のようにふくらませたまま持っている、しぼんでしまう。今日みなさんが話し合ったことは前向きなすばらしいものだが、その希望を持ったままであるより、いつ、どういうタイミングで放すかが問題だ。まさに教役者と信徒が一つとなつてスタートしたとき、なにか新しいものが満たされる。ともに希望を持って歩みたい」

・教会はまず信徒があつて、聖職者がいる。信徒が意識をもって、小さなことから始めるべきだ。
・教会に「お参り」するのではなく、教会を共同体として守るため、牧師・信徒が一体となる交わりが必要。
・チェンジの時代だ。(教会の)組織が固まっているので、それを破る必要がある。
・批判的でもよいから、説教について意見を言うてもら

(編集部)

第14回ランベス会議「省察」要旨

「アングリカンの家族」の友愛を広げよう

世界の聖公会の主教が集い、アングリカン・コミュニティの交わりを深め合うため、10年に一度開催される「ランベス会議」は、今年7月16日から8月3日まで英ケント州

ために、主教が必要なものを備えること」と、「アングリカン・アイデンティティ」を強めることである。

カンタベリーのケント大学で第14回会議が開かれ、日本聖公会からも10教区の主教と、当時、主教被選者だった大西修主教も参加された。今回の会議では、いつものような決議は行われず、相互理解を深めるため主教たちの話し合いが行われ、その経過をまとめたものが「リフレクション(省察) (振り返りの意) として発表された。以下はそれを要約したものである。

わたしたちには、「アングリカンの家族」という希望があり、その友愛、交わりを限りなく広げようとするものがあり、私たちがキリストにおける洗礼の内に入らしめるものである。カンタベリー大主

教は、二つのテーマに集中することを求めた。すなわち、「宣教の

「宣教と福音伝道」の本質をめぐって省察では、個々の対話とイエス・キリストを通じた変革によって生まれるものが、あらゆる被造物の贖いへと溢れ出ることを意味している。キリスト者は、一人ひとりの「正義」、そして社会における「正義」に関わらなければならぬ。とりわけ、私たちの社会において最も貧しい人々、捨て置かれた者たちのために関わらなければならぬ。キリスト者は、イエスご自身の働きに倣って、この世界を変革し、この世界に仕えることを求めるのである。

この宣教についての概念を、「環境」への配慮という領域にまで広げている。これは、現代世界の営みにおける大きな関心事であるが、同時に、創造という神の賜物に對

する、神の民が担うべき社会的責務の一つでもある。自分たちが「キリストの教会」というより大きな現実に属する者であることを確認し、「エキュメニズム」、すなわち、私たちがキリストから委ねられた福音の宣言を、私たちの姉妹である東方、西方の諸教会と共に探求し、展開していくことは、神に対する私たちの誠実なる応答の一部となるのである。このセクションでは、教会の「完全なる可見の一致」に対するアングリカンの責任について再確認している。それはまた、私たちの宣教のより広いコンテキストを想起させている。すなわち、キリスト教だけが世界的な宗教ではない、ということである。私たちの現代のコンテキストにおいては、「他の世界諸宗教との対話」に入ること

は不可避的な事柄なのである。世界のキリスト教に対する、アングリカン・アイデンティティの明確な貢献について探求している。私たちは、聖書によって育てられ、礼拝によって形づくられ、交わりのために整えられ、神の宣教へと

導かれる者であると、自らを描くことができる。「同性愛」をめぐる緊張に関する難しい諸問題が探究されている。それは、聖公会神学における聖書の権威をめぐっての省察へと繋がられている。「聖書」の権威については、

ランベス会議にスチュワードとして参加

岡 希美

7月16日からイギリスのカンタベリーにて開かれたランベス会議に、私はスチュワードとして参加させていただきました。自分を育ててくれた教会や教区、そして聖公会のために働くことができるのなら、ぜひ挑戦してみたいという思いと、イギリス、主教会議といった未知の世界に対する不安と期待が私の気持ちの大半を占めていました。世界19カ国から集まった52人のスチュワードたちと、1週間の訓練から実際の会議のサポートにあたるまで、1カ月という時間をともに過ごしました。国際色豊かなメンバーであり、それぞれが国や文

化の違いを認めながらも、私たちはみな聖公会の一員であって、ランベス会議のためにここに集められたのだという共通の思いが常にありました。神様を通して出会い、働いた仲間とは、それぞれの国に帰っても、ともに祈った時間を大切に、これからも助け合っていこうと約束しました。会議が大きな混乱もなく、こうして無事終えることができたのも、神様が常に私たちとともにいて、守り、導いてくださったからにはかなりません。このことに深く感謝するとともに、この経験をこれから信仰生活を続けていくなかで心の支えとし、さらなる活動へとつなげていきたいと思えます。(おかがきのぞみ 大阪聖三一教会信徒)

導かれる者であると、自らを描くことができる。「同性愛」をめぐる緊張に関する難しい諸問題が探究されている。それは、聖公会神学における聖書の権威をめぐっての省察へと繋がられている。「聖書」の権威については、

導かれる者であると、自らを描くことができる。「同性愛」をめぐる緊張に関する難しい諸問題が探究されている。それは、聖公会神学における聖書の権威をめぐっての省察へと繋がられている。「聖書」の権威については、

第4回 大阪教区 青少年キャンプを終えて

高木謙一郎

8月14日から16日まで、「紀泉わいわい村」(泉南市)で、29人の子供達を連れてキャンプを行いました。

あつていました。ずっとつながっていたんだ、これからもつながっているんだと実感した3日間でした。

今年のテーマは『つながり発見』。人とのつながり、自然とのつながり、神様とのつながり...いろいろなつながりを感じてきたらなあという思いからこのテーマになりました。

僕はこのキャンプは今年で2回目の参加でした。去年はわからないことだらけで言われるままに動いていたという感じでした。そんな僕が誰もやる人がいないということもあり、実行委員長をやることになってしまいました。2年

会にふりかえり集という冊子を配布させていただく予定です。また10月19日の教区礼拝の際にキャンプに関連したものを展示させていただきますのでご覧ください。



キャンプでは参加者とのつながりを強く感じました。メンバーは初対面に近い場合が多い

です。それなのに前から仲がよかったかのようになり、みんなすんなりとうちとけ



ランチング大会

目も参加したいとは思っていませんでしたが、まさか実行委員長などというたいそうな名前のついたものをやることになるなんて思ってもみませんでした。委員長としてやっていくのだからかという不安もありました。

このキャンプの一番の特徴は、青年主体というところだと思えます。プログラムの企画はもちろん、案内の送付、キャンプ場との交渉などほとんどこのことを青年達がやっています。子供達と共に青年達も成長できる、そういうキャンプだと思えます。そんなすばらしいキャンプを僕たち青年スタッフはこれからも続けていきたいと願っています。

聖ヨハネ教会信徒)

主教授手式にお迎えした来賓の方々はこのとおりです。

- 督教団大阪教区・向井希夫総会議長、日本自由メソヂスト教団・大井清美総会議長、大阪キリスト教連合会・井上隆晶会長、韓国基督教会館(KCC)・李清一館長、部キ連・帆ノ下昭光議長、止揚学園・福井達雨理事長、同・西竹めぐみ、プール学院・岩坂正雄理事長、同・杉山修一学院長、中高校長、松岡興二事務局長、桃山学院・森本衛事務局長、同・和田俊雄管理部長、聖バルナバ病院・植田充治院長、博愛社・大野定利児童擁護施設長、東光学園・大久保正彦(理事長代理)、聖ヨハネ学園・野知卓司理事長、三光塾・側垣雄二理事長、聖公会生野センター・呉光現理事、CMS(前CMS東南アジア・ディレクター)C・A・ソー司祭、CMS(CMSアジア・ディレクター)P・シンプソン司祭、日本聖公会保育連盟・尾上明子、日本聖公会婦人会・鈴木久美子会長、日本GFS・植松三千代代表、大阪教区連合男子会・豊川雅章会長、大阪教区婦人会・鈴木光子会長、大阪教区GFS・岡増敬子代表。

第3回 サーバー研修会に参加して

フランチェスコ
成岡 宏晃



7月21日に第3回サーバー研修会が川口基督教会で開催されました。聖公会での教会生活が始まって、まだ一年にも満たない私にとってこのチャンスは多くのことを学べる絶好機だと思い、何の躊躇も無く参加させていただきました。皆さんの指導や議論の一言一句全てが、驚きと新鮮さに満ち溢れていて、私が想像していた以上の素晴らしい出会いや、学びを経験させていただきました。

開会祈禱を終えて、前回までに学んだ礼拝中の所作や聖餐に至るまでの礼拝の流れを簡単に復習すると早速、聖餐についての講義が始まりました。この講義の中で教わった最も大切なことは、ひとつひとつの所作に込められた意義や役割を考え、それぞれを理解した上で聖餐式に臨むことの大切さでした。そうすることが、よりいっそう深いイエス様との一致を感じることに繋がるのです。講義の後は二人で組みをつくり、司祭とサーバーの役に別れて聖器や聖布が描かれた画用紙を用いての簡単な練習を行い(写真)、休憩をはさんで今回の総まとめとして礼拝堂で聖餐式を行いました。やはり講義の直後ということもあって、これまでの聖餐式とは比べ物にならないくらい恭しい心で聖餐式に臨めたように感じました。

今回も含めてこのサーバー研修会のテーマは「仕えよう喜びをもって!」です。教会生活の中でとても大切な聖餐式。その聖餐式で司祭と共

に聖卓の前で神様にお仕えするサーバー。サーバーの聖餐式に対する姿勢や心構えによって聖餐式の空気も変わるでしょうし、そうすることで信徒一人ひとりにとって、より充実した聖餐式にあずかることができるのではないのでしょうか。

私にとって今回のサーバー研修会で最も良かったことは、教区内の他の教会の教会員の方々と司祭の方々と出会えたことでした。普段は目にすることの出来ない多くの方が、いつものようなことを考える教会生活と向き合っているのかということを知ることができ、少しではありますが感じるものが出来ました。これからは、自分にとっての教会生

京都・大阪教区合同召命黙想会

奥村 貴充

召命黙想会に参加するにあたって自分が課題としていたことは、本当に自分には召命があるのだろうかということですが、今回は箕面という自然に囲まれた環境の中で都会の喧噪を離れてもう一度自己の召命を見つめ直すには最適なプログラムでした。また京都教区との共同の黙想会という



黙想会の出席者

ことで懐かしい方々と再会することができ、神さまの導きを感じました(その反面、学生時代のズッコケ話が大阪教区の方々に知られたらどうしようという不安もありました)。

講話を聴き黙想するという一連の過程で気が与えられたことは、やはり自分には祈りというものが足り

活を常に考え、突き詰め、その想いをしっかりと実践していきたいと思えます。このような素晴らしい機会を私たちに与え、支えてくださった神さまと、この研修会を企画・運営してくださった教区の皆様に心から感謝いたします。(なりおかひろあき 聖アンデレ教会信徒)

神学院神学生)

移転して…半年

聖公会生野センター 総主事 呉光現

聖公会生野センターが拠点を与えられて半年が過ぎました。皆さんにセンターの近況をお伝えしたいと思います。

現在、センターには毎週200人を超える人が出入りします。

まず、「のりばん」（韓国語で「遊び部屋」という意味）。毎週水・金の2回、地域の在日韓国朝鮮人の高齢者が集い、韓国料理を食し、わいわいやがやと楽しんでいきます。ここ近年は食後の韓国ドラマが大人気！韓国人のメンタリティーを知っている人には普通の光景ですが、ドラマを見ながら画面に向かって意見をしたり、お互いに楽しい「論争」をしたりします。今年4月に済州島を訪問し、60年前に勃発した済州島四三事件の慰霊祭に参加しました。のりばんに集う多くのハルモニのほとんどは何らかの形でこの事件で親族が犠牲になっていきます。普段楽しく過ごしている

のりばんのハルモニたちが涙を流して祈りました。60年経ってようやく彼女たちの「胸の溜まり」が溶解したのです。のりばんにはボランティアを含めて毎週50人がセンターに出入りします。

次に「クリンもだん」。一人の知的しようがい者が美術教室の学びに訪れてから、今や大阪でもしようがい者美術の一つの拠点になりました。教室は水から土までの週4回です。また毎春秋に「クリンもだん美術展」を開催しています。美術教室には同じく50人ほどの人がセンターを利用します。

美術教室から誕生したのが「デイサービスセンター」クリンもだん。しようがいを持った受講生の成長につれて地域での居場所を始めました。移転後は週末には精神しようがい者も来るようになりまし。しようがい者がのびのびと、そしてのんびりと過ごす

時空間を目指しています。近頃は精神しようがい者の利用が増えて土日は大賑わいですが将棋好きが多く、将棋ボランティア？は大歓迎です。一度将棋を指しに来ませんか？デイサービスにはスタッフ含めてやはり50人位がセンターにやってきました。

4つ目は韓国語教室。火曜日の夜、近くから自転車に乗って、遠くから電車、自動車で生徒さんが来ます。日本人も在日も一緒に机を並べて学んでいます。現在入門班から上級班まで4クラスです。生徒の多くは中年の女性です。二世として生まれ子育ても終わりようやく自分を表現したい、という思いが在日の女性には感じられます。日本人の女性はやはり韓流ブームでし

聖公会生野センターが新拠点取得のための募金を開始

生野区にある「聖公会生野センター」が、設立後16年目でやっと本格的な活動拠点を確保して、今春移転しました。鉄筋3階建ての立派な会館です。同センターは設立の目的として、在日韓国・朝鮮人と日本人とが真に共生できる社会作りを目指して、これまでの歴史的反省の上に設立されましたが、同時に、生野地域での地域活動・宣教センターとして大きな役割を果たしています。とくに最近では、日本人・在日韓国人に関わらず地域の知的しようがい者、あるいは精神しようがい者

象とした美術教室「クリンもだん」やデイサービス（いわゆるB型生活支援センター）といった社会福祉センターとしても地域で認知されつつあります。その他、韓国語教室や在日1世のための集い「のりばん」など、多彩な活動を行っています。機会があれば、是非お出かけになって、地域社会に奉仕する新しい生野センターの姿を知ってください。パソコンで見ることが出来る方は、ホームページで地図を

ようか？大人の学びと交流の場として韓国語教室には30数人が訪れます。以上、センターの近況を簡単に伝えましたが、1階の壁にある木製の十字架を眺めて、神さまの恵みを感じるところです。これからも聖公会生野センターを愛してくださるようお願いいたします。

ご覧ください。

ただ今回移転した拠点は、非常に安い家賃ではあるものの、賃借状態であるため、近い将来それを取得することを目指して、生野センターは5年間で総計3500万円の募金を呼びかけています。生野センター大阪教区後援会が中心になって募金活動を進めています。皆様のご協力をお願いいたします。

大阪教区在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会

司祭・ペテロ 岩城 聰

大阪教区教会巡り

16



「家の教会」から45年

— 恵我ノ荘聖マタイ教会

9月21日、私たちの教会は、45周年の礼拝と敬老礼拝を併せておこなわれました。聖マタイ教会で沢山の人が信仰生活をおくられ、他教会に移っても活動されているのをうれしく思っています。また信仰生活を全うされた方を憶えて祈っています。その方々を含めての聖マタイ教会だと思っています。

45周年というのは、50年と40年の中間にあたります。50年に向けて、教会が宣教の業にさらに参加できますよう、お祈りに加えてください。

聖マタイ教会の位置

恵我ノ荘聖マタイ教会は、大阪阿倍野橋駅からでている

近鉄電車で、準急と普通を乗り継ぐと、約13分で着きます。阿倍野橋から近鉄「恵我ノ荘駅」、そこから約徒歩3分です。近鉄電車沿線には、大阪市内には「大阪聖三一教会」があり、河内長野に向う途中に「富田林聖アグネス教会」があります。

恵我ノ荘聖マタイ教会の できるまで

恵我之荘に伝道所が置かれる前に、「松原に講義所が開設され、聖三一教会とも関係があった」と（1888年、明治21年頃）あります。「C・M・S 関係の宣教師、ことに川口にあった三一神学校の教師や学生の伝道地としたのが、

松原講義所であった。聖三一教会とも関係があったと思われる」（大阪教区50年史）。その後松原講義所がなくなったのは分かりません。

鉄道の開通によって、大阪市に繋がる住宅地として、今の近鉄沿線は、また恵我之荘周辺も発展していきます。戦前には富田林、道明寺などに、講義所、伝道所が開かれていたそうです。その中で、農村伝道を中心にした富田林の伝道所は教会を建設し、富田林聖公会となり、現在の富田林聖アグネス教会になっていきます。恵我之荘周辺は広い敷

地の住宅が並んでいたようですが、信徒の多くは大阪市内の教会に繋がっていました。

戦後は、大阪教区南部の諸教会が、家庭集会を近鉄沿線で持ったたよう、特に近鉄恵我ノ荘駅前の公民館で月1回の伝道集会がもたれていたと

1959年には町村合併によって、「羽曳野市」が誕生します。

それはさておき、1959年にカナダ聖公会の宣教師であったマクドナルド司祭が、

現在地にあつたカナダ聖公会の宣教師住宅に住み、恵我之荘の地に福音のタネを蒔き始めたところから始まりま

す。けれどもいろいろなことがあつて、カナダ聖公会が撤退することになり、マクドナルド司祭も大阪聖三一教会に属しながら、活動を続けられました。その後、大阪教区が教区40周年の記念事業として打ち出した事業の一



バザー風景

環としての新伝道所のために、土地建物をカナダ聖公会から買い取るようになりました。

1963年9月4日、その建物で、晩禱式による伝道所開所式を行いました。83人の方々の出席がありました。しかし、その次の日曜日からは、少ない人数で礼拝を守っていたようです。

当初から「家の教会」を指したわけではなく、教会の本建築を願いながらも、長く叶えられませんでした。増築改築によって、それを補っていました。人数が増えるに従って、徐々に教会建築への道が開かれてきました。それが現実味をおびたのが、増築も、

(次ページ4段目につづく)

「全国青年大会in沖縄」に参加して

上田 結子



大阪教区の青年がそろって

「そこにキリストは共にいる」をテーマに8月20日から23日まで、沖縄で「全国青年大会in沖縄」が開催された。辺野古の海、とても静かなこの場所に、基地を建てようとする動きがあり、それは日本全体の平和に関わる問題である、という説明を聞いたのに、私の心はどこかでそれを現実だと認識できなかった。私は沖縄について、教科書程度の知識はあったが、どこかとても遠くの出来事だと思っていた。しかし、沖縄で戦跡を回って、辺野古の海を観たとき、決して無関係でも、遠くの出来事でもないのだと気が付かされた。私は全然知らなかった。必死の阻止活動が行われていることも、沖縄がこんなに大きな悲しみを飲み込んだ土地だということも。教科書で習う文字だけの知識では、何一つ分かっていなかったということが、分かった。

最終日、教区毎のセッションが行われた。大阪教区から参加した青年たちは、青少年キャンプを通じてよく知った仲間であり、私たちは最初から真剣に議論を交わすことができ

た。その中で、沖縄の問題は沖縄だけのものではなく、大阪で出会う様々な問題も、全てが連鎖の中で起こっているのだ、という意見が出た。沖縄のこと、韓国のこと、すべてが無関係ではなく私たちに關わる問題であり、私たちはそれらを学び、「正しく」知って行かなくてはならない。そして、今回のように学ぶ機会を与えられたときには、全員で学んだ事を教区に発信していかなければならない。そう皆で確認し合った。

私は、大阪教区の仲間と沖縄に來られてよかったなあ、と思った。本当に、皆が問題意識を持って取り組んでいた。この青年大会は、沖縄について知り、考える機会を与えてくれた。また全国にいる青年たちと出会い、共に祈ることができた、そして何より、教区の皆と共にこれから問題に取り組んで行く基盤を作ることができた。私は今回青年大会に参加できたことを、本当に感謝している。

(うえだゆいこ 聖ガブリエル教会信徒)



ペンギンを折りながら平和を考える

(前ページよりつづく)

補修の道も閉ざされた時です。建築条件が悪かったのと敷地面積が少ないため、初めは新しい地への移転、他の教会との合併も視野に入れて模索したのですが、最終的に今の場所建てて決まりました。それまでの積立金、教区はもとより、教会内外の方々からの献金、バザーの収益などによって、予想を超える金額が与えられました。さらに他教会を訪問したり、他の場所で礼拝をしたり、困難な教会建築を通して一致団結強められる経験をしました。

1989年3月に竣工感謝礼

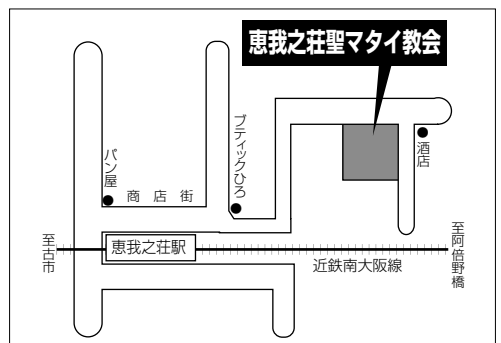
拝を行いました。

聖マイ教会の宝物と喜び

私たちの教会には、「宝物」があります。30周年を記念して、教会の名前にちなんで信徒が協力して写した「マイ福音書の写本」があります。立派なもので、聖マイ日に読むことにしています。但し以前の口語訳(俗に言う「協会訳」)です。

さらに45年の歴史の中で、教会信徒より3人の教役者と3人の教役者夫人が私達の中から巣立って行ったことは、教会として大きな喜びです。

(文責：牧師 鍋島守一)



日本聖公会「人権セミナー」 が開かれました

山口 善彦

「ともに生きる社会」を目標として」という題で、9月8日〜10日、大阪市内で本セミナーが大阪教区の担当で開かれました。全国から総勢63人が参加され、内容豊かなセミナーでした。

◆第一セッション…聖書の学

び（本田哲郎神父―聖フランシスコ会士。写真は本田神父）。

釜ヶ崎の社会福祉法人聖フランシスコ会「ふるさとの家」を拠点にして活動しておられ、実践を踏まえて聖書の解釈と

和訳をしておられる。

「愛とは何か」、人を大切に思う・大切にすると、世の小さくされた人たちの側に立つて生きること。新旧訳聖書の十数カ所から聖句を引用され、分かりやすいお話で素直に納得できました。

◆第二セッション…大阪での

取り組み（呉光現氏―聖公会生野センター、牧口一氏―NHK TV「きらっと生きる」司会者の一人）、お二人の対談。

一世二世の体験を風化させないように記録し語りつづけないければならない、センターでは日韓の人たちのための韓国語教室、障碍者のための美術教室、在日韓国朝鮮人の高齢者が集まる場「のりばん」を運営している（呉さん）。
障碍者問題の解決のために「夢・かぜ基金」を立ち上

げ各方面から協力願っている。最近の日本人は何事も「穏便に」処理しようとしていないか、お互いに問いかけ突っ込みが出来るような人間関係を作っていききたい（牧口さん）。

◆第三セッション…「在日コリ

アンをめぐる諸問題」（朴一氏―大阪市大大学院教授）。
ご自身の4日間で20軒もの入居拒否差別の経験を踏まえて、グローバルな視点で外国人が住みやすい国にしていかなければ、と言われた。

◆第四セッション…フィール

ドトリップ生野センター、釜ヶ崎。
コリアタウンを歩きながら生野センターへ。見学の後、釜ヶ崎ふるさとの家を訪問。

1階は60才以上の人の、2階は若い人のくつろぎの場。横の小さい部屋に身元不明の人の納骨堂があり、田宮執事の司式で祈りを捧げました。
日本福音ルーテル教会喜望の家を訪問。アルコールや薬物などの依存症の人たちの相談と自立支援プログラムによる支援を行っている、とのこ

と。

◆第五セッション…ふりかえりのあと 聖餐式。

4組に別れ、分かち合いの時間を持ちました。五十嵐主

教の司式で聖餐式、説教は鍋島司祭、分かち合いで出された代祷をそれぞれおさげしました。
（やまぐちよしひこ 大阪聖三一教会信徒）

教区関係教役者 逝去記念聖餐式

◆11月12日（水）午前11時 於 主教座聖堂（川口基督教会） 説教者 田宮 絃執事

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス
- 3日 司 祭 パウロ 山本 早太
- 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄
- 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏
- 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男
- 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保
- 12日 宣教師 ドーラ・レイチル・ハーワード
- 17日 宣教師 ガートルド・E・コックス
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳
- 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン
- 21日 主 教 ホレイス・H・プライス
- 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄
- 23日 司 祭 北川 千代 吉
- 30日 宣教師 アミー・キョライン・ボサン
- 宣教師 アンナ・マリア・タボン

◆12月10日（水）午前11時 於 主教座聖堂（川口基督教会） 説教者 山本 眞司祭

- 1日 宣教師 エリス・イライザ・ソープ
- 2日 主 教 チャイリシ・キウイラ・ク
- 13日 司 祭 ジョン・キヤリー・アングラー
- 16日 司 祭 尾 形 虎 三
- 17日 司 祭 アイサー・ラザフォード・モリス
- 宣教師 エリー・ビュン・ボルトン
- 18日 宣教師 ジェーン・キヤスパリ
- 22日 伝道師 清田 海一 郎
- 司 祭 近 重 利 澄
- 27日 司 祭 ヘンリー・レオナルド・ブレバ
- 28日 伝道師 大 塚 惟 明
- 29日 司 祭 マルコ 伊 崎 八 束
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティ

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、主教座聖堂（川口基督教会）で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加のうえお祈りください。



教区の動き

常置委員会報告

8月19日(第11回定例)

主教報告

1. ランベス会議の状況について報告。なお、大西修主教被選者は前半の会議に出席された。提案されていた「聖公会誓約(アングリカン・カヴェナント)」は、会議で主教の意見を聞いた上で9月に第3案を作成、来年1月開催の首座主教会議でこれを協議、夏前に開催される全聖公会中央協議会(A C C)で最終案が作成され、2010年には各管区・教区がその批准を要請される。

2. 休職中の任大彬司祭は、8月20日から沖縄で開かれる日本聖公会全国青年大会に個人として参加する。

3. 大韓聖公会からの宣教協働者である趙鍾必執事と大阪教区の間で、7月1日に契約書が交わされた。

教務局報告

1. 教区の教役者およびその配偶者の定期健康診断の確実な実施を改めて促した。教区・教会から主たる給与を支給されている教役者本人、および現役で無給の教役者本人に対して、毎年1回限り2万円を限度として補助する旨を通知した(6月常置委員会の決定による)。

協議事項

1. 前回議事録を承認した。

2. 7月度一般会計収支決算報告を受け、承認した。

2. 今年の教区礼拝(10月19日)の式典長に福田光宏司祭を、副式典長に岩城聰司祭を指名する。

3. 第100(定期)教区会について、次のように決定した。

*開催日: 11月24日(月・休)

*書記: 竹内信義司祭、内田望司祭

4. 教区保有の乗用車が老朽化しているため、新たに購

入する方向で検討する。

5. 大阪教区主教按手式の詳細な実施計画について協議した。

9月11日(第12回定例)

主教報告

1. 井上進次聖職候補生の執事按手を10月19日に行われる教区礼拝の中で行う。

2. 聖公会神学院の状況について報告

教務局報告

1. 主教按手式・就任式の準備状況について報告。

2. 主教按手式・就任式に参加される海外からの主教はじめ来賓の受け入れ体制について報告。21日の主日での礼拝奉仕予定は次の通り。

* 朴耕造主教(大韓聖公会管区長・ソウル教区主教)

* 大阪聖ヨハネ教会

* 金根祥主教(ソウル教区後継主教) : 京都聖ヨハネ教会

* 尹鍾模主教(釜山教区主教) : 聖ガブリエル教会

* 頼栄信主教(台湾聖公会)

主教) : 川口基督教会

協議事項

1. 前回常置委員会議事録を承認した。

2. 8月度一般会計収支決算報告を受け、承認した。

3. 主教按手式・就任式の細部について最終的確認を行った。

4. 教役者による井上進次聖職候補生の執事按手前默想会を、10月12日・13日に箕面の大阪聖ヨゼフ修道女会祈りの家で行う。

5. 囑託教役者および現役・囑託教役者の健康診断補助について協議し、囑託教役者については現役教役者と同等の補助を行い、配偶者については7000円を限度として補助を行うこととした。

9月11日(第12回定例)

主教報告

1. 井上進次聖職候補生の執事按手を10月19日に行われる教区礼拝の中で行う。

2. 聖公会神学院の状況について報告

教務局報告

1. 主教按手式・就任式の準備状況について報告。

2. 主教按手式・就任式に参加される海外からの主教はじめ来賓の受け入れ体制について報告。21日の主日での礼拝奉仕予定は次の通り。

* 朴耕造主教(大韓聖公会管区長・ソウル教区主教)

* 大阪聖ヨハネ教会

* 金根祥主教(ソウル教区後継主教) : 京都聖ヨハネ教会

* 尹鍾模主教(釜山教区主教) : 聖ガブリエル教会

* 頼栄信主教(台湾聖公会)

芦屋聖マルコ教会

ヨハンナ
ユニケ
加藤光和子
大和田光子



守口復活教会

ヤコブ
カトリーナ
ヨシユア
ヨセフ
マリア
義平 雅夫
義平香津子
須藤 共生
伊藤 健
伊藤 あい

芦屋聖マルコ教会

ユニケ
ダニエル
大和田光子
木山雄一郎

魂の平安を
祈ります

大阪聖ヨハネ教会

ハンナ
増岡 ハナ
(7月10日・58歳)
物部 恭三



川口基督教会

ヴァンソン
ヴィダル 遠真
(8月8日・92歳)

守口復活教会

ヨセフ
マリア
伊藤 健
伊藤 あい

芦屋聖マルコ教会

マルタ
(7月31日・92歳)
遠近五十子

教会・施設の動き

大阪聖ヨハネ教会

○大韓聖公会首座主教・ソウル教会主教朴耕造師父、奥様韓英蘭夫人が9月21日当ヨハネ教会に來られて、主教から説教と、韓国聖公会の現状を聞き、短時間ではありましたが、交流の一時を持ちました。

○当教会信徒出口雪代姉は、この度のミャンマーのサイクロン、四川大地震、国内外の災害に心を痛め自分のできることをしたいと言うことでミニミニチャリティコンサートをいたしました。聴衆者約50人でしたが、シヨパンのノクターン等それぞれにピアノの音色を聴き献金箱に献金してくださいました。捧げられた23,061円はユニセフを通じて送金いたしました。

○パイプオルガンの預託者との繋がり、故ブリーゲン家族より、縁があつて鐘をいただきました。

芦屋聖マルコ教会

○9月14日、75歳以上の方24人、(該当者は47人)をお迎えして長寿感謝礼拝と敬老会をしました。

○9月28日、大西主教をお迎えして牧師任命・洗礼・堅信聖餐式を執り行いました。

【お詫びと訂正】

教会巡り「尼崎聖ステパノ教会」の筆者は鈴木憲二さんで鈴木健二は誤りでした。

聖職者逝去記念聖餐式の日付が誤っていました。また9月度の逝去者記念記事で「執事ラザロ布施好吉(ふせこうきち)」とあるのは「布施好古(ふせよしふる)」の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集後記

大西修主教の按手式・主教就任式には内外の諸団体、他教派などからも多くの来賓の方々の参加を頂き、感謝いたします。教区報では、その方々のご芳名を第7面に掲載し、交わりの広さ、深さへの感謝の気持ちとして記録させて頂きました。ただ、誌面の関係上、とくに「内輪」の方々のお名前を省略させていただきました。この選択の責はすべて編集部にあります。ご了承をお願いいたします。

(編集部)

テーマ「主のみ業にあずかる私たちの召命」

2008
大阪教区礼拝

聖餐式および執事按手式
10月19日(日)10時30分から
【聖霊降臨後第23主日】

場 所：プール学院中学校・高等学校 清心館
司式・説教：サムエル大西 修主教(大阪教区主教)
信施奉献先：ミャンマーの水害被災者のため
聖公会生野センターの新拠点確保のため

日本聖公会大阪教区